

地域密着型金融の取組事例について

タイトル 営農部門との連携による新規就農支援 JA名 JAいわき市(福島県)

1 動機 (経緯)	・新規就農して間もない農業者に対し、営農部門と金融部門が連携して、ハウスによるいちごの土耕栽培の立ち上げを支援したものです。
2 概要	・平成22年に新規就農した農業者は、営農指導員の紹介により、いちご部会会長のハウスで実習を行うとともに、JAのアグリマイスターや営農指導員から栽培技術の指導を受けていましたが、その後農業者からパイプハウス(20a)を取得したいとの相談を受けました。JAでは営農指導員が補助事業の申請手続きを支援するとともに、金融部門では補助残部分について農業近代化資金の活用を提案しました。平成23年5月に補助金交付の内示を受け、平成23年9月からいちご(とちおとめ)の土耕栽培に着手。平成23年11月に5.6百万円(総事業費10.3百万円、うち補助金4.6百万円)を貸付実行し、いちごのハウス土耕栽培の立ち上げを支援しました。
3 成果 (効果)	・専業農家を目指す農業者の「農への思い」の実現を手伝うことができたのに加え、東日本大震災の津波でいちごの生産基盤を失った地元いちご栽培農家の雇用の場の確保にもつながりました。
4 今後の 予定(課題)	・農業者との信頼関係の構築と農業経営の発展を支援するため、営農部門との連携をさらに強化し、農業者への同行訪問などにも本格的に取り組む予定です。

<パイプハウスでの苺苗づくり>

